

細則様式第 4 号

| | | | |
|-----------------|--------|-------|---------|
| 論文審査及び最終試験結果報告書 | | | |
| 氏 名 | 前田 貴哉 | | |
| 入学年度 | 平成27年度 | 学籍番号 | 15GG603 |
| 領 域 | 健康支援科学 | 分 野 | 老年保健学 |
| 審査委員 | 主 査 | 高見 彰淑 | |
| | 副 査 | 尾田 敦 | |
| | 副 査 | 門前 暁 | |
| | 副 査 | 吉田 英樹 | |

論文題目：電気刺激療法および電気刺激療法と温熱・寒冷療法の併用施行が整形外科疾患患者の鎮痛ならびに運動機能に及ぼす影響に関する検討

審査結果要旨：

本論文は、整形外科疾患患者が呈する疼痛や運動機能低下に対して、電気刺激療法および電気刺激療法と温熱・寒冷療法の併用施行の有用性について検討した研究である。

本研究で得られた新知見は、慢性の腰椎疾患患者および変形性膝関節症（膝 OA）患者に対しては、鎮痛目的で実施される経皮的電気神経刺激（TENS）を単独で施行するよりも、TENS と温熱療法を併用して施行することが相乗効果を生むこと、さらに、人工膝関節全置換術（TKA）を施行された膝 OA 患者に対して術後の早い段階から TENS を活用することで効率的な疼痛コントロールが可能となり術後の運動機能回復にも好影響を与え得ることである。これらの知見は、臨床現場において極めて有益な情報であり、理学療法介入の選択を増やすことに繋がるものでもあるため、高く評価される。

申請者は現時点での研究結果の意義と問題点を十分に理解しており、学位審査会で示した上で質疑にも的確かつ謙虚に対応していた。さらに、学位論文においては、本研究の限界や今後の展望についても記述されており、今後の研究の発展性も十分に期待された。

本研究の遂行にあたり、申請者は準備からデータ収集・解析ならびの公表等の過程において高い研究遂行能力を有するとともに、十分な倫理観も身につけていること、さらに今後一層研鑽する見込みが学位審査論文及び学位審査会において伺われた。従って、博士の学位に資すると判断した。

最終試験 平成 30 年 2 月 1 日

試験の結果は 合 格 ・ 不 合 格 と判定する。